

自己評価及び学校関係者評価結果

学校法人旭川カトリック学園 美唄アカシヤ幼稚園

1. 本園の教育目標

キリスト教という宗教的な雰囲気の中で、多くの愛に包まれながら伸び伸びと活動し、様々な環境の中で、人格形成の最も大切な時期にはっきりと正しい道徳観を持ち、たくさんの経験してもらい、幼児の心身を健やかに育成出来るようにする。また、保育者や友達との関わりの中で、自分の言葉で伝えるという行為を大切にする。

「おいのり・しんせつ・がまんの心」をモットーに毎日の祈りを通じて、感謝の気持ちを育み世界の人々にも視野を広げ、自分のことだけでなく、人のために祈りや考えることが出来るような子どもたちを育てていくことを目指す。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

カトリック幼稚園としての意義や幼稚園教育要領について、職員(保育者)全体で理解を深めるために、建学の理念や幼稚園教育要領を学び直す機会を通して、幼稚園教育の質の向上に努めていく。

また、昨年度の反省を踏まえ、子どもたちの確かな成長を援助する環境づくりを考え、そのために職員同士の連携を深めていく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目・目標	取組状況
<p>1 保育の計画性</p> <p>保育内容及び指導の在り方等を精査し、指導計画を策定し、教育内容の充実を図る。</p>	<p>自己評価の結果は4点満点中3.3点で、昨年度比+0.1点となった。特に「指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成する」「遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量に配慮して用意する」の結果が高かった。一方、「幼稚園教育要領を読み、園長や保育者と話し合い理解に努める」「カトリックの教えや教育方法について園長や保育者と話し合い理解に努める」の結果がやや低く、改善が必要である。</p>
<p>2 保育の在り方、 幼児への対応</p> <p>安全管理の徹底、幼児理解の向上、子育て支援その他の充実を図る。</p>	<p>自己評価の結果は4点満点中3.6点で、昨年度比+0.2点となった。特に「けがや事故に気をつけ、万一、事故やけがが発生した場合は、園長に報告し、保護者に連絡を取り、医師に見てもらうなど適切な処置を行う」「園児のことについて保育者同士で話し合い共通理解をするように心がける」の結果が高かった。一方、「他のクラスや異年齢の園児たちと触れ合うような、さまざまな工夫をする」の結果がやや低く、改善が必要である。</p>

<p>3 保育者としての資質</p> <p>保育専門家としての能力、姿勢、責任等資質向上を図る。</p>	<p>自己評価の結果は4点満点中3.7点で、昨年度比+0.1点となった。特に「職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守る」「無断欠勤や遅刻をせず、当番や役割による仕事は確実に進行」「園児と一緒に生活を創りだすことを楽しいと感じる」の結果が高かった。一方、昨年度と同様「園児の性格や個性を把握し、その子の考えや感じていることを理解する」「保護者に対し、日頃から自分の保育に関する考えや理想をわかりやすく話し、保護者との信頼関係を築くよう努める」の結果がやや低く、改善が必要である。</p>
<p>4 保護者への対応及び家庭との連携</p> <p>園児に関わる情報の発信と受信、保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応を図る。</p>	<p>自己評価の結果は4点満点中3.7点で、昨年度と同じとなった。特に昨年度同様「保護者の住所、電話番号など個人情報の管理については園の方針に従う」「個々の園児や保護者、家族の情報は口外しない」の結果が高かった。また、全ての項目で3.5点を上回っており、昨年度同様、園全体で保護者との対応や家庭との連携に真摯に取り組んできたと考えられる。</p>
<p>5 地域社会との連携</p> <p>地域の自然や社会との関わり及び小学校との連携を図り、地域開放の努力をする。</p>	<p>自己評価の結果は4点満点中3.0点で、昨年度と同じとなった。特に「地域の人々と親しくあいさつや会話を交わすように心がける」の結果が高かった。また、昨年度に引き続き、全職員が域内の小学校の授業参観日に参観するなど、小学校との連携に取り組むことができた。一方、「地域の自然や主な施設の場所、交通機関についてマップを作成するなど、利用しやすい工夫をする」の結果が依然として低く、地域の自然や社会と関わる取組について教育課程に位置づけるなどの改善が必要である。</p>
<p>6 研修と研究</p> <p>研修・研究を積極的に行い、専門性を高める努力をする。</p>	<p>自己評価の結果は4点満点中3.3点で、昨年度比+0.2点となった。特に「保育の専門家として、自己研鑽に努力する」「幼児の発達理論を学び、保育にいかすための研修・研究を行う」の結果が高かった。また、本年度も園内研修として保育相互参観を行い、保育の質を高める取組を推進することができた。一方、「預かり保育や子育ての支援について研修する」「幼保連携、幼小連携の必要性や具体的方策について研修する」の結果が低く、改善が必要である。</p>

4. 学校関係者の評価

上記「3」の1～6の各項目について、6名の学校関係者評価委員の皆さんに「良い・普通・改善あり」プラス記述で評価していただいた。幼稚園の自己評価の結果を真摯に受け止めて評価していただき、感謝申し上げます。

記述評価として、「特に、冬の通園バス運行状況(今どこを走っているか等)がアプリ等で見られたら大変ありがたいと思います」というご意見をいただいた。システムの導入について、その内容や費用面等から検討を進めていく。

5. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

1年間の園運営や保育等について自己評価をすることにより、幼稚園全体での本年度の成果として確認できることや、改善に向けて取り組まなければならない課題を明らかにすることができた。また、学校関係者評価を実施したことにより、自己評価結果に客観性をもたせ、今後の各般の取組についての方向性を確認することができた。

6. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
地域の自然や社会と関わる取組の拡充	地域の自然や施設等を活用した保育活動を拡充するため、地域の教育資源を調査研究する取組を行う。また、調査結果に基づき、具体的な保育活動を構想し、教育課程に位置づける。
子育て支援や幼保・幼小連携に関する研修の充実	効果的な預かり保育や子育て支援の在り方、また、幼保・幼小連携の必要性等について、学習の機会を確保するため、年間研修計画に位置づけ、研修を実施する。

7. 財務状況

大手監査法人である太陽ASG有限責任監査法人(東京)の監査を受け、適正に運営されていると認められている。また、法人本部の財務状況報告により法人内各幼稚園及び学園全体の財務状況は職員の間にも周知されており、共通理解に立って効率的な運営に努めている。